

学 会 消 息

1. 和達氏 学術会議会長に当選

本学会理事、気象庁長官 和達清夫氏は1月20日の日本学術会議の総会で、過半数の投票によって新会長に選ばれた。亀山直人工博、茅 誠司理博、兼重寛九郎工博につぐ第4代の会長である。

2. 原子力研究総会発表会が開かれた

2月11日～13日に神田の学士会館で第1回原子力研究総合発表会が関係学会の共同主催で開かれた。

3. 下層および上層の大気における化学反応に関するシンポジウムの開催 (サンフランシスコ)

スタンフォード研究所の主催で、“Symposium on Chemical Reactions in the Lower and Upper Atmosphere” が1961年(明年)4月18日から20日にわたってサンフランシスコのマーク・ホプキンス・ホテル(Mark Hopkins Hotel)で開かれる。連絡の宛先は

Dr. R. D. Cadle

Stanford Research Institute Menlo Park, Calif.

4. 数値予報シンポジウム準備すすむ

本年11月に開催される数値予報シンポジウムの準備は着々と進み、今までにチャーニー博士を初め二十数名の外国学者の講演参加申込も来ている。これら講演題目等は次号に掲載する予定。

5. 新入会員

会員番号	氏名	所属	備考
1621	江口 武	清水測候所	A会員
1622	田村 充	〃	〃
1623	田村 寿男	〃	〃
1624	弘井 一男	〃	〃
1625	山本 大吉	〃	〃
1626	前野 政俊	鹿児島地方気象台	〃
1627	長浜 宗政	〃	〃
1628	脇田 哲雄	〃	〃
1629	田畑 留雄	〃	〃
1630	堤 良造	〃	〃
1631	岩之 勳	〃	〃
1632	並河 義孝	海上自衛隊	〃
1633	横山 長之	気象庁	〃
1634	鈴木 信雄	〃	〃
1635	大田 正夫	京都学芸大学	B会員
1636	吉村 弘	稚内地方気象台	A会員
1637	安井 春雄	名古屋 〃	〃
1638	高岸 常也	神戸海洋気象台	〃
1639	山下 眺	舞鶴海洋気象台	〃

理 事 会 便 り

第21回常任理事会議事録

日 時 昭和35年1月9日 10.00～12.30

場 所 神田一ツ橋 学士会館

出席者 吉武・肥沼・伊東・神山・畠山・今井・根本・有住・正野・磯野・淵各理事(順序不同)

決 議

1. 来年度の月例会の年次計画は次のとおり実施することになった。

35年 4月 (休)

5月 (大会)

6月 山の気象、乱流と低層気象、高層気象。

7月 気象力学、総観気象。

8月 気象学史と教育。

9月 生気候。

10月 気象災害、降水機構、レーダ気象。

11月 (数値予報国際シンポジウム、定期大会)

風。

12月 気象電気、IGY。

36年 1月 気象輻射、太陽活動、気候。

2月 観測と測器、長期予報と統計。

3月 航空気象。

2. 科学技術会議からの回答に対しては次のように委員をお願いして回答案を作成することとなった。

なお、要旨を天気1月号に掲載して広く意見をきくことになった。

科学技術会議アンケート委員会委員

肥沼理事(委員長)、伊東理事、有任理事(幹事)

今井理事、根本理事。

3. 日本学術会議からの照会(前半期における研究発表計画)の回答は、今井理事が作成することになった。